

# 感性コミュニケーション

---

脳が創り出す  
男女のミゾ

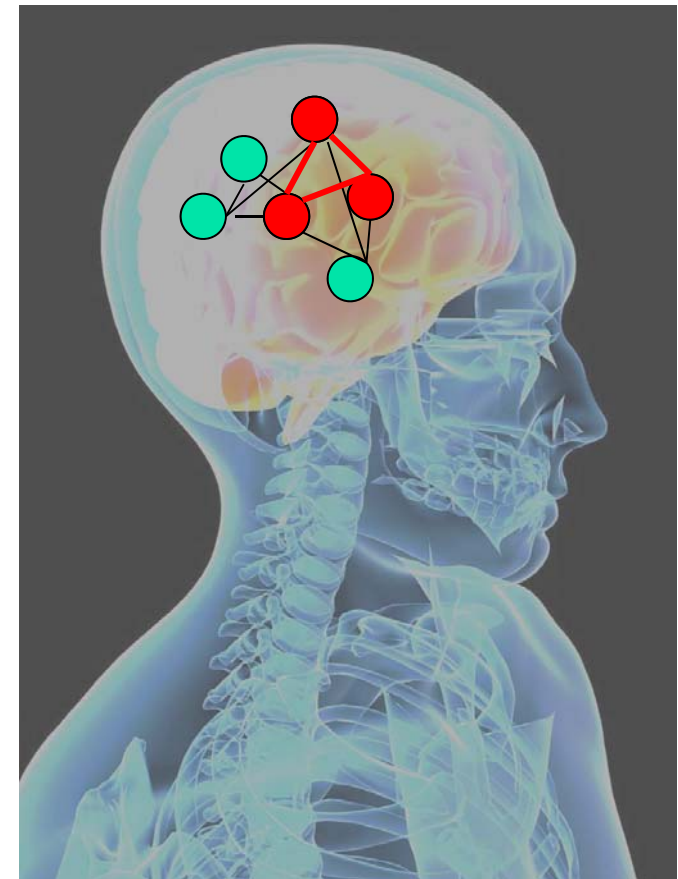
 株式会社感性リサーチ



## 脳は、装置である

脳は、脳神経細胞《ニューロン》と幾重にも枝分かれしてそれらをつなぐ神経線維によって、天文学的な回路を有する

これらの回路は、気づき、感じる、考える、思うなどの脳のイベントに関与しており、必要なときに必要な回路が、化学的な電気信号によって活性化される



## 脳を装置として見立てると

- 男女のミゾが見えてくる

=男女の脳は、回路構成と信号特性が大きく違う

- 人生の波が見えてくる

=脳の出力性能は、56歳で人生最大になる

- 時代の風が見えてくる

=大衆全体の周期性をもって脳が連動している

- ことばの魔法が見えてくる

=ことばには、意味とは別に脳にもたらずイメージがある

# 「今日、なんだか、腰が痛くて」



# 【命題1】女性は、なぜ、 昨日まで許していたことに、ある日突然 キレて、絶対に許せなくなるのか

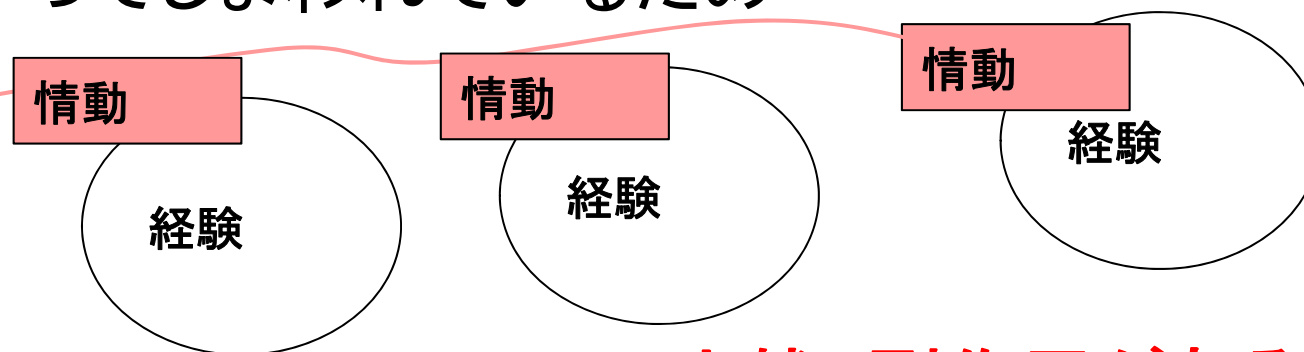


## 女性脳は、過去のすべてを一瞬で思い出す

女性脳は、脳の一次処理領域に、何十年分もの関連記憶を一気に展開できる

たとえば子どもが熱を出したら、過去の関連記憶を総動員して、今何をしたらいいのかを導出する

過去の体験記憶が、情動(その時の心の動き)をキーにして芋づる式につながってしまわれているため



**当然、副作用がある**

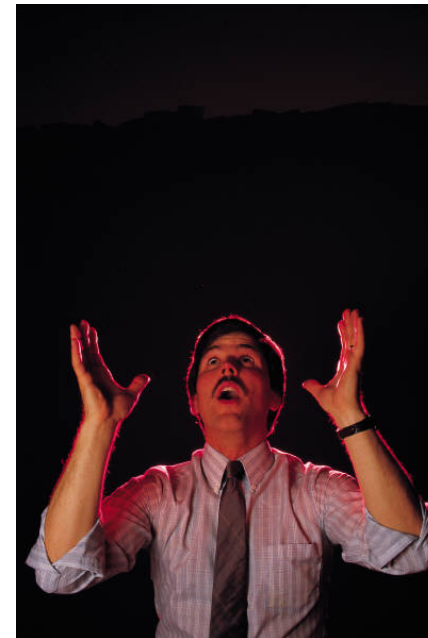
# 男性脳への処方箋 答えようのない質問に善処する

「あなたって、どうしてそうなの？」

「〇〇と私、どっちが大事なの？」

「私たちの結婚生活って、意味がないと思わない？」

**【命題2】男はなぜ、察してくれず、  
あげく「言ってくれればやったのに」なんて  
無神経なことを言うのだろうか？**





# 女性脳は、察してなんぼ 男性脳は、察する機能が付いていない

- 哺乳類のメスである女性脳は、「察して動く」天才
- 哺乳類のオスである男性脳は、察しないように、男性ホルモンによって制御されている

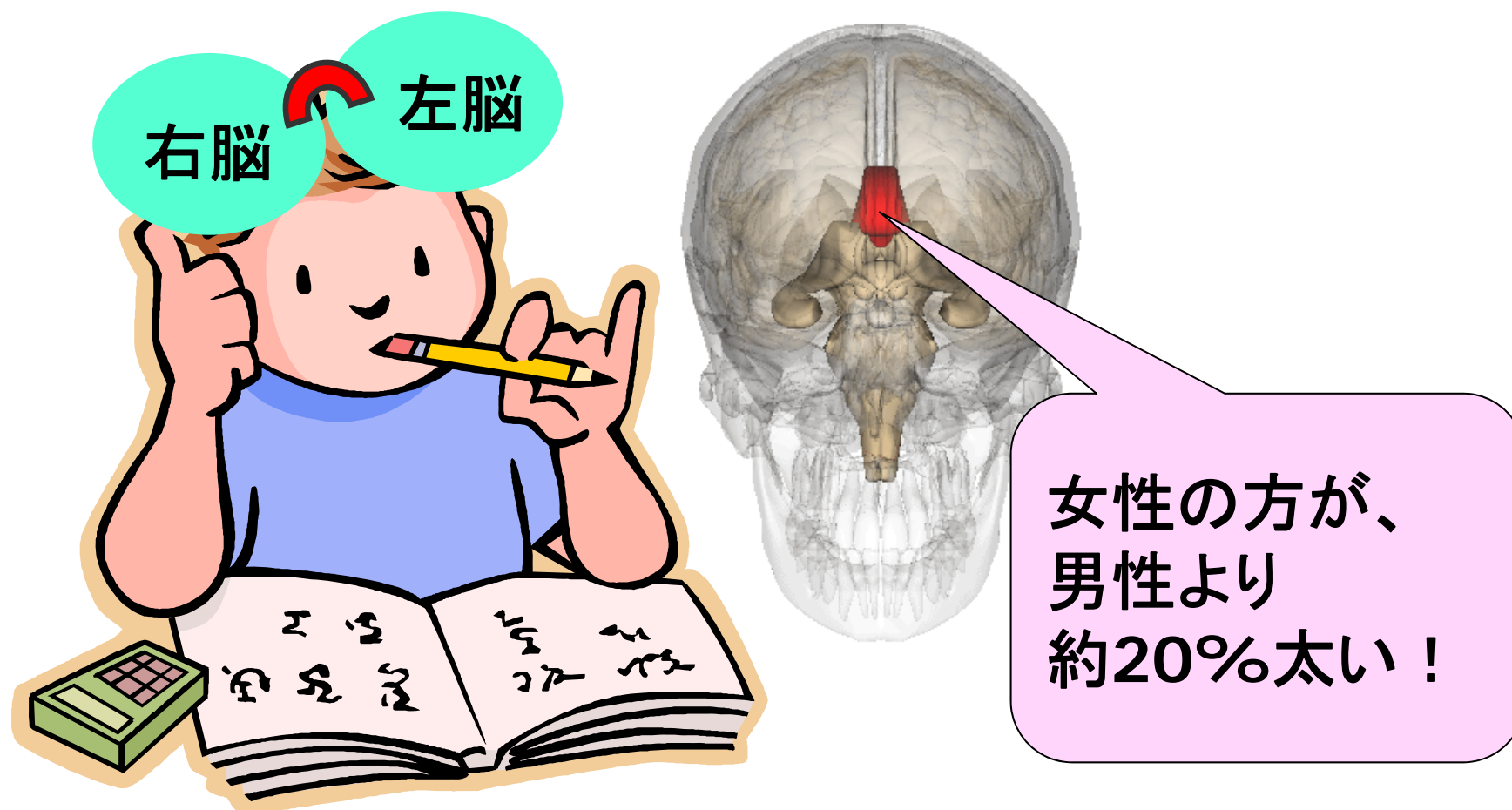
# 男性脳への処方箋 察しなかったことを、あやまる

「言ってくれればやったのに」は、察することを放棄したことば。火に油をそそぐので、言うてはいけない

むしろ、「気づいてあげられなくてごめん」と素直に謝った方が、女性たちの好感度は断然高い

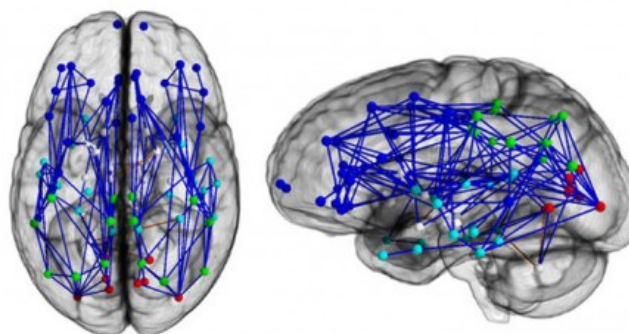
# 男性脳と女性脳は違う

# 男女脳の違い＝脳梁(のうりょう)の太さ



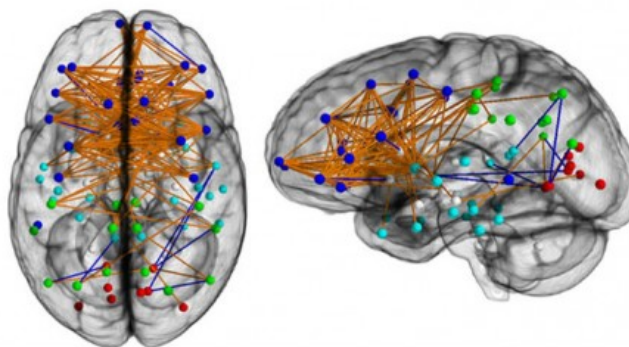
# 男女の脳は、回路特性・信号特性が違う

男性脳



右左脳の機能を  
徹底して使う

女性脳



右左脳の連携  
が頻繁

8歳から22歳までの被験者949名(男性428人、女性521人)を対象として、  
拡散テンソル画像法(Diffusion Tensor Imaging, DTI)にて脳内部の神経線維  
ネットワークを可視化／米ペンシルバニア大学

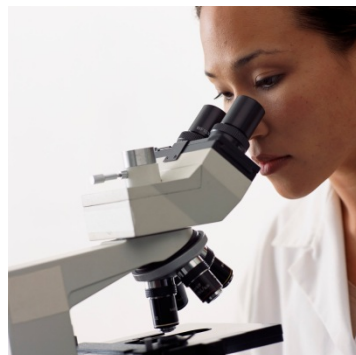
# 脳梁が太い女性脳

# 臨機応変力

右脳(感じる領域)と左脳(顕在意識と直結して言葉を紡ぐ領域)が頻繁に連携

大切なもののわずかな変化も見逃さず、本人も知らないうちに危険回避をして暮らしている

おしゃべりによって潜在情報を収集し、何か事が起こったら、何年分もの記憶を一気に脳裏に展開し、臨機応変に動ける





# 脳梁が細い男性脳

# 俯瞰力

右脳と左脳が頻繁には連携しない

周囲の変化や自分の体調変化に鈍感

そのおかげで目の前のことに頓着せず、身近な人の思いを察していちいち動揺することもなく、普遍の仕事を成し遂げる。地の果てまで行くし、死ぬまで戦うし、むらのない作業を延々と積み上げて、大都市も作るし、精密機器も作る



## 女性脳は、共感してくれた相手に愛着がわく

共感が知的行為の核になっているので、共感してもらわないとストレスが溜まる

感じたことが即ことばになる女性脳は、そのことばを口から出さないと神経系のストレスが溜まる

とりとめのないことを一定量しゃべり、共感してもらうことに意味がある

すばやい問題解決、「結論から言ってくれ」などの誘導は必要なし

**大事ななのは「ことばの反復」**



## 男性脳は、とりとめのない話に耐性が低い

男性脳は、他人の話も、「空間認識」の領域で聴く  
《この話のゴールはどこ？ そこまでにいくつのポイント  
があり、現在、何番目なのか？》

空間認識機能が空回りすると、強いストレスを感じる＆  
ぼうっとした顔になる＝話を聞いていないと思われる

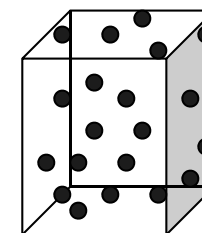
夫や息子を、愚痴と指図で追い立てないこと

大事なものは、結論から言う＆数字をいう

## ものの見方の違い

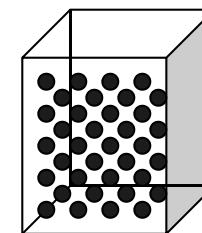
### 三次元点型認識の男性脳

まばらに、空間全体を把握



### 二次元面型認識の女性脳

目の前をなめるように見る



オットとは、頼んだものを探し出せないくせに、  
賞味期限切れの食品を獲物のように妻の前に差し出し、  
むかつかせる生き物

## この世に、二つの脳があるということ

片方は、空間全体を把握して、獲物までの距離を正確に測り、複雑な図面を読む。変化には弱い  
が、死ぬまで頑張れる。

もう片方は、目前をなめるように見て、他者の  
体調変化や食物の腐り具合を敏感に察知する。  
「おしゃべり」によって、潜在情報を収集する。

これらを一つの脳に収めると、判断が遅れる。

**男女は違いを認め合えれば最強の組合せ**

# 組織の中に、男女脳が混在すれば、

気づきの種類が増える(論理的な気づき、俯瞰的な気づき  
+ 繊細な五感による「なんとなく、おかしい」  
「腑に落ちない」という気づき)

発想の種類が増える  
(機能の組合せ + ものがたりの組合せ)

ホスピタリティの種類が増える(父性 + 母性)

コミュニケーションの種類が増える(激励、評価、公平性 +  
ねぎらい、人間性を認める、顧客や部下の気持ちを自分の  
ことのように考える)

タフさの種類が増える(集中力、瞬発力 + 変化に強い、  
先が見えないことにめげない)

\*\*\* 黒川伊保子近著 \*\*\*

「日本語はなぜ美しいのか」(集英社新書)

「怪獣の名はなぜガギグゲゴなのか」(新潮新書)

「恋愛脳 ～男心と女心はなぜこうもすれちがうのか」(新潮文庫)

「夫婦脳 ～夫心と妻心はなぜこうも相容れないのか」(新潮文庫)

「運がいいと言われる人の脳科学」(新潮文庫)

「家族脳 ～親心と子心はなぜこうも厄介なのか」(新潮文庫、2014年5月発売)

「しあわせ脳に育てよう」(講談社)

「脳育ての黄金ルール」(芽ばえ社)

「しあわせ脳練習帖」「王子様に出会える「シンデレラ脳」の育て方」(講談社+a文庫)

「いい男は「や行」でねぎらう、いい女は「は行」で癒やす」(宝島新書)

「キレル女 懲りない男 ～男と女の脳科学」(ちくま新書、好評発売中)